

# 白藍塾オリジナル

## 2017入試小論文分析&解答のヒント

2017年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ●慶応・経済学部

設問Aが説明問題、設問Bが小論文問題という、例年通りのオーソドックスな出題となっている。設問Bの書き方に迷う人はいるかもしれないが、それ以外に難しいと感じるところはないはずだ。

課題文は翻訳文だが、きわめて論理的に書かれているので、わかりにくい部分はないだろう。前半で「伝統や権威を盲信せず、自分自身で考えるべきだ」とするソクラテスの考え方を紹介し、後半でそれを現代のデモクラシー（民主主義）の状況と結びつけて論じている。

設問Aは、課題文の言う「ソクラテ斯的論者」とはどのように議論をする人のことかを説明することが求められている。

これは、課題文の前半をまとめるつもりで書くとよい。基本型Aに従って、「権威や仲間の同調圧力に屈せず、自分自身で考えて議論する人」ということをまず示した上で、「話者の地位や名声ではなく、議論の内容そのものを重視する」「対話の相手を打ち負かすのではなく、相手と共有できる前提を探っていく」といった内容をくわしく説明するとよいだろう。

設問Bは、「課題文のみにとらわれず」とはあるが、やはり課題文に基づいて論じるのが無難。2つの問いに答えることが求められているが、これに通常の四部構成で答えるのは難しいので、基本型Aを2つ重ねる形で書くのがよいだろう。

まず1つ目の問い（ソクラテ斯的論者は組織内でどんな活躍ができるか）は、課題文の第5・6段落でリスク・マネジメントとイノベーションについて説明している部分を参考にすると書きやすい。ただし、あくまでも小論文問題なので、課題文を要約するような形ではなく、具体例なども交えて自分なりにふくらませることが必要だ。

2つ目の問い（組織はどんな条件を備えるべきか）は、「少数意見や異議・反論を抑圧することなく、自由に表明しやすい、または上司がそれを拾い上げやすい職場環境が必要」といったことを説明すれば、設問のねらいとうまくかみ合うはずだ。

いずれにしても、400字の中に2つの問いへの答えを盛り込まなくてはならないので、くわしい説明や掘り下げは不要。設問のねらいを理解していることをアピールするつもりで書けば十分だ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <http://www.hakuranjuku.co.jp>